

環境調査結果のお知らせ

平成21年6月11日
中央漁業指導所・水産試験場

平成21年6月11日、野見湾のプランクトン検査をしましたので、結果をお知らせします。

採水場所 湾奥ブイ (調査定点のSt.1：野見崎と小長崎の中間点)
採水水深 0m・2m (ペットボトルによる簡易採水)

環境調査結果表 (プランクトン)

単位 cells/ml

調査地点・水深		ケラチウム・フルカ	プロロセントラム属 (2種類)	メソディニウム・ルブラム
湾奥ブイ	0 m	0	1	2
	2 m	1	1	5
生海水 直接観察法	5 m	—	—	—
	10 m	—	—	—

プランクトン

海水の透明度が高く、プランクトン密度は低くなっています。プランクトンの種類も珪藻類(キートセロス類とスケレトネーマ類)が主体で、有害種の出現数は僅かです。

先日(6月4日、6月9日)の調査で密度が高かったケラチウム・フルカは現存量が大幅に減り、今回は2m層で1 cells/mlが出現しただけでした。

プロロセントラム属のプランクトンはプロロセントラム・マイカンス(2m)とプロロセントラム・デンタータム(0m)の2種類です。プロロセントラム・マイカンスは有害種ですが、直接的な被害よりも増殖によって周辺を貧酸素状態にし、結果的に魚介類を弱らせてしまうことがあると言われています。プロロセントラム・デンタータムは基本的に無害種です。

メソディニウム・ルブラムは赤潮になることもありますが、魚類には基本的に無害種です。

コクロディニウム・ポリクリコイデスは今回は出現しませんでした。しかし、本種は、表層より2~5m層で増殖する傾向があり、発生状況が分かりにくいので、今後とも細心の注意が必要です。

今回は、海水の透明度もよく、有害種の出現数も僅かでしたが、今後ともプランクトンの動向と養殖魚の様子には注意するようにしてください。

なお、海面の泡立ちや着色、養殖魚の異常を感じたときなどは、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所までご連絡ください。